

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 いわき市立平第三中学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	1 学年 158名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (総合的な学習の時間)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>パラスポーツに関する講演やパラスポーツの実体験を通して、障がい者スポーツについての理解を深めるとともに、「多様な文化を受け入れ、互いの人格を尊重し合い、共に力を合わせて生活する共生社会の実現」にむけて、考えを深める。さらに、講師の話から、自分の生き方（キャリア）について深く考える機会とする。</p>
5 取組内容	<p>◆パラスポーツに関する講演会及び体験教室の実施</p> <p>1 事前学習（10月29日 総合的な学習の時間）</p> <p>○パラリンピックとパラスポーツについて</p> <p>○共生社会について</p> <p>2 パラスポーツ体験教室の実施（総合的な学習の時間）</p> <p>11月5日 10時25分～15時40分</p> <p>(1) いわきサン・アビリティーズ(障がい者教養文化体育施設)施設長の菅野英輔氏による講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者スポーツについて ・ルールや楽しみ方について ・生社会の必要性について <p>(2) パラスポーツ体験教室</p> <p>○講師 いわきサン・アビリティーズ施設長 菅野英輔氏 施設職員5名</p>





○車いすバスケットボール、シッティングバレーボール、ボッチャ、卓球バレー、フライングディスクの学習と体験（5グループに分かれてすべての種目を体験）



- (3) 閉会行事
 - 菅野英輔氏による講評
 - お礼の言葉
- (4) 事後指導
 - 振り返り
 - 感想用紙の記入



6 主な成果

- 講話やパラスポーツ5種目の体験を通して、障がい者スポーツへの理解を深め、楽しさや魅力を感じ取ることができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「障がい者を特別視するのではなく補う方法を共に考えることの大切さ」、「互いに声をかけ合う関係性の大切さ」、「ルールや方法を工夫することで障がい者も健常者も共にスポーツを楽しむことができること」を学ぶことができた。 ○ 生徒の感想用紙には、「共生社会の必要性」に関する記述が多く見られた。 ○ 準備や講師のサポートに代表生徒が携わることで、バリアフリーの重要性について考えを深めた。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講師の選定にあたり、いわき市教育委員会と連携を密にして、連絡調整を行った。 ○ 事業の実施にあたっては、事前に本校のキャリア教育推進委員会の生徒や教師がいわきサン・アビリティーズを訪問して体験を行うなど、協力団体との関係性を深めた。 ○ 協力団体との連携を密にして、すべての生徒が多くのパラスポーツを体験できるように日程や実施方法を工夫した。 ○ 3年間の中で多くの生徒が事業に関わることができるように、見通しをもって実施学年等を計画した。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピック・パラリンピック教育推進事業の推進校として実施してきたが、教育的意義をふまえ、今後も総合的な学習の年間指導計画の一部に明確に位置づけていくこと。 ○ 必要経費や講師の謝金等を支出する財源を確保していくこと。 ○ この3年間で得られた関係団体等とのつながりを財産として、今後も同様の教育を継続していくこと。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「共生社会の実現」というテーマを、次年度以降もキャリア教育の一部として継続して取り上げていく。これまでに構築された関係団体とのつながりを生かしていきたい。